

理念・構造(MYPプログラムモデル)



- ▶ 最終的には、全ての学びが「プログラムモデル」の真ん中にある「学習者像」に向かっていきます。「学習者像」のデザインに描かれているのは、「生徒・保護者・教員」の3者です。
- ▶ MYP最終学年(高校1年次)では、学びの集大成としてパーソナルプロジェクトに取り組みます。
- ▶ 3つ目の円にあるMYP8つの教科群は、日本の科目と次のように対応します。

日本の学習指導要領上の教科・科目	MYPの教科群
国語	言語と文学 Language and literature
外国語(英語)	言語の習得 Language acquisition
社会	個人と社会 Individuals and societies
技術・家庭	デザイン Design
理科	理科 Sciences
数学	数学 Mathematics
音楽・美術	芸術 Arts
保健体育	保健体育 Physical and health education

※IBやMYPに関する詳細は、IBや文部科学省IB教育推進コンソーシアムのHPをご参照ください。
 [IB] <http://www.ibo.org/myp/> 【文部科学省IB教育推進コンソーシアム】 <https://ibconsortium.mext.go.jp/>

お問い合わせ



学校法人 津曲学園
鹿児島修学館 中学校・高等学校
 KAGOSHIMA SHUGAKUKAN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

〒890-0023 鹿児島市永吉二丁目9番1号
 TEL.099-258-2211

www.shugakukan.ed.jp/

▶ 国際バカロレア中等教育プログラム(MYP)認定校

IB 修学館で学ぶ国際バカロレアプログラム
 International Baccalaureate Middle Years Programme MYP Middle Years Programme

みんなが学ぶことの楽しさを知り、
 学び続ける力を身につける学校



学校法人 津曲学園
鹿児島修学館 中学校・高等学校
 KAGOSHIMA SHUGAKUKAN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL





国際バカロレアとは？

About International Baccalaureate

国際バカロレア (IB: International Baccalaureate) とは、国際バカロレア機構 (本部ジュネーブ) が提供する国際的な教育プログラムです。IBは、国際的に通用する大学入学資格 (国際バカロレア資格) を与え、大学進学へのルートを確認することを目的として1968年に設置されました。世界の複雑さを理解し、対処できる生徒を育成し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるチャレンジに満ちた総合的な教育プログラムを世界160以上の国・地域において約5,500校で提供しています。IBにはグローバル化に対応できるスキルを身に付けた人材を育成するため、生徒の年齢に応じて、PYP (3～12歳対象)、MYP (11～16歳対象)、DP (16～19歳対象) などの教育プログラムがあります。IBの学びは日本の学習指導要領でも強調されている「探究」や「アクティブ・ラーニング」を中心としたものです。新しい大学入試やその後の人生でも活かせる「学び続ける力」を身につけることができます。

ミッション・ステートメント

IBの「使命」を文章化したものです。「mission statement」の「mission」が「使命」、「statement」が「声明」「述べること」のような意味です。「国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。」 (IB (2014) 「MYP 原則から実践へ」より)

日本におけるIB教育

近年、日本政府はIB教育を積極的に普及させてきました。これからの教育の先進的なモデルとして「国内のIB校を200校以上にする」という具体的な目標をかかげ、文部科学省IB教育推進コンソーシアムを設置しました。結果、国際バカロレア認定校等数は、令和5年9月30日時点で216校となり、IBを活用した大学入試も増えています。

IBの学習者像

「IBの学習者像」は、「IBの使命」を具体化したものです。IB認定校が目指す人間性を、以下10の人物像として表しています。本校の生徒・教職員・保護者は常にこの学習者像を大切に学びます。

考える人

コミュニケーションが
できる人

探究する人

心を開く人

知識のある人

信念をもつ人

思いやりのある人

挑戦する人

バランスのとれた人

振り返りができる人



修学館でのIB教育

修学館とIBプログラムについて

本校では、それまで積み重ねてきた探究活動や協働学習、人間教育をさらに系統立ったものにして、改革を進めるために、2018年からIB導入の検討を始めました。途中コロナ禍の影響もあり、他の学校に比べてゆっくりじっくりと浸透させてきました。2023年7月10日付で、国際バカロレアからMYP正式認定の通知がありました。インターナショナルスクールを除いて、日本の学校教育法第1条に規定されている学校 (1条校) では17校目になります。1条校のMYP認定校は九州初、国際バカロレア認定校は鹿児島県初です。※

本校では、11～16歳を対象としたMYP (Middle Years Programme) を中学1年から高校1年まで受講します。高校2・3年では、大学合格などの進路実現をプロジェクトとしてとらえ、MYPでつちかった能力やスキルを応用して、各自の目標達成に向けて探究します。

このようなIB教育を軸とした学びにより、学校教育目標 (「みんなが学ぶことの楽しさを知り、学び続ける力を身につける」) や、下のミッションステートメントを実現します。

※DPの導入時期については、2024年時点で未定です。

グローバル社会の発展と人類の平和と進歩に寄与するために

- (1) 主体性、創造性を培い、生涯にわたって学び続ける力を育む。(克己)
- (2) 互いの人格と個性を尊重し、支え合う心を育む。(礼節)
- (3) 健全な精神、広い知見、旺盛な探究心を養い、絶えず発展しようとする態度を育む。(飛躍)

学びの様子



協働 (保健体育)

グローバル社会では様々な価値観を認めることができる心が不可欠です。日々の生活の中で他者が何を考えているのか、その裏にある考え方は何なのかを探究する必要があります。保健体育の授業ではグループワーク中心の授業により協働的な学びの機会を与えることで、多様性を尊重する心も養います。



差異化 (理科)

IBでは、指導を差異化することによって、生徒が適切な学習目標を個別に設定し、到達を目指すための機会をつくることに留意しています。理科の授業では、個人実験の時間が設けられており、実験計画立案、実験、考察を独力で行います。一人一人別々の実験を行い、結果や考察を他の生徒と共有することでさらに学びが深まります。



評価 (社会)

評価の目的は、生徒の学習を支援し、促すことです。生徒が何をできるかはかるパフォーマンス課題が実施され、評価は到達度で示されます。生徒は、教員からのフィードバックを受けて、さらにパフォーマンスを高められるように努力します。

「生きる力」を身につける、MYPの特長



学際的単元

学際的単元では複数の教科を同単元で扱い、学問分野を越えて問題を解決する経験をします。全学年で年に一度は学際的単元を学ぶことになっています。上の写真は、高校1年の地学基礎と数学の学際的単元の例です。「川内原子力発電所を停止 (廃止) すべきか?」というテーマでのディベートがゴールです。データに基づいた根拠を示すことが求められます。



探究、概念、ATL、グローバルな文脈

MYPの全ての科目では、探究を通して概念理解を進める単元づくりが行われます。目の前の学びが世界や実社会にどのようにつながっているのかという「グローバルな文脈」も意識されます。さらに、全ての学びにおいてATLスキルと呼ばれる共通のスキルを意識し、「学び方を学ぶ」ことを重視します。このようなしかけによって、学びが世界や将来につながるよう意図されています。



SA (サービス・アズ・アクション)

本校では、重なり合う幅広い地域やグローバルコミュニティの中で信念のある行動に取り組むための重要な手段として、他の人々を行う奉仕活動を重視しています。生徒達は、SAの活動を通して、人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。



PP (パーソナルプロジェクト)

MYPの集大成として、高校1年生でPersonal Project (略してPP) に取り組みます。PPでは、各々が自分の興味・関心に基づいてプロジェクトを計画・実行し、それをレポートにまとめます。生徒たちは、これまで身に付けたATLスキル (左ページ参照) を活用して、最高のプロジェクトを目指します。